

1 1 「古典の日」の制定と文化庁分室の設置

(文部科学省・文化庁)

日本の心は、1200年を超える歴史の中で培われた現代の京都のまち及び日々の暮らしの中に脈々と息づいています。地域社会に活力を与え、国際社会における日本の理解を一層促進していくためには、日本人自身が日本の心を再認識し、体現させていくことが重要です。

京都市では、京都府、京都商工会議所などと共に、平成20年11月に「古典の日」宣言を行い、平成21年4月には古典の日推進委員会を創設するなど、古典を通じて伝統文化に親しみ、日本の心を次世代に継承していくための取組を進めてきました。しかし、なお日本人の古典離れが進んでいるため、若い世代から古典文学に親しむ気運の醸成が求められます。

また、日本の「文化力」の更なる向上を図り、文化芸術立国を推進するためには、東京一極集中ではなく、関西にも拠点を置き、日本文化を強力に発信していくことが効果的です。その関西の拠点としては、歴史的・文化的資源が集積し、極めて高い文化力を有する京都こそがふさわしいと考えます。

これまでから、「文化庁関西元気文化圏推進・連携支援室」を継承し、機能を充実強化した文化庁分室の設置を提案しておりましたが、国民文化祭京都開催が目前に迫った今、従前にも増して強く提案します。

提案事項

- 1 伝統文化に親しみ、日本の心を伝える古典の振興を図るため、
 - (1) 「古典文化振興法（仮称）」の制定
 - (2) 制定する法律に基づき、古典を現代に生かし親しむ日として11月1日（「源氏物語」の存在が記録上確認できる最も古い日付）を「古典の日」に制定
 - (3) 古典関連の視聴覚教材や学校図書の実質、能や狂言など古典芸能鑑賞の機会拡充等、教育環境整備への支援
- 2 海外発信や人材育成等について、京都市、京都府との協力により、京都及び関西の強みである日本を代表する歴史的・文化的資源を生かした事業展開を図るための拠点としての、京都市への文化庁分室の設置

所管の省庁課：文部科学省（初等中等教育局財務課） 文化庁（長官官房政策課，文化庁芸術文化課）
京都市の担当課：総合企画局 政策企画室 京都創生課長 石田洋也 TEL 075-222-3375
教育委員会事務局 総務部 総務課長 稲田新吾 TEL 075-222-3768
文化市民局 文化芸術企画課 計画推進担当課長 城本聡美 TEL 075-366-0033

古典に関する取組

平成 20 年 11 月 「古典の日」宣言～千年紀記念式典



- 源氏千年紀経済効果
1,087億円
- 関連催事(主催・後援等)
参加者 430万人
- 新聞関連記事
2,380本
- 特徴
持続的・全国的な拡がり
* 千年紀委員会発表
(平成 19・20 年度計)

「古典の日」宣言 抜粋

源氏物語千年紀委員会

揺れ動く世界のうちにあるからこそ
私たちは いま古典を学び
これをしっかりと 心に抱き
これを私たちのよりどころとして
世界の人々と
さらに深く心を通わせよう

平成 21 年 4 月 古典の日推進委員会創設

古典の日推進委員会

- 呼びかけ人 千 玄室氏 (茶道裏千家前家元)
梅原 猛氏 (哲学者)
瀬戸内 寂聴氏 (作家)
芳賀 徹氏 (京都造形芸術大学名誉学長) など
- 会長 村田 純一 (財)京都文化交流
コンベンションビューロー理事長
- 副会長 山田 啓二 京都府知事
" 門川 大作 京都市長
" 久保田 勇 宇治市長
" 立石 義雄 京都商工会議所会頭

日本の心の 次世代への継承

◆ 古典の日制定の効果

- ・ 若い世代の古典回帰
- ・ 世界に誇れる古典の再認識
- ・ 古典文学や伝統文化に親しむ
気運の醸成 など

平成 22 年 8 月 「古典の日」制定のための 署名活動スタート

文化庁分室の京都設置

◆ 「関西元気文化圏」推進・連携支援室

設置：平成 19 年 1 月〔当面 5 年間〕

※ 国民文化祭京都開催の平成 23 年度末まで

場所：京都国立博物館内

文化庁分室機能のさらなる拡充

海外発信や人材育成等について、文化庁分室と京都市、京都府との協力により、京都及び関西の強みである日本を代表する歴史・文化資産を活かした事業展開を図る。

◇ 古典文化の振興拠点

日本の伝統文化に親しみ、日本の心を伝える古典の振興を図り、古典に親しむ機運の醸成と古典関連教育推進のための拠点とする。

◇ 日本版アーツカウンシルの関西拠点

大学のまち・京都ならではの人的資源を活かし、西日本を管轄するアーツカウンシルの拠点として、文化芸術創造活動の支援を行う。

◇ アーティスト・イン・レジデンスの総合情報・施設間連携の拠点

アーティスト・イン・レジデンスに先進的に取り組んでいる京都を拠点として、関連施設の総合情報化及び連携を強化するとともに、国内外への発信を図る。

◇ 東アジア文化圏の構築

国際日本文化研究センターなど、京都の大学・研究機関の集積を活かし、「東アジア文化芸術会議」を開催する等、東アジアの人的・文化的交流の拠点とする。

◇ 文化発信・国際文化交流の推進

京都が有するメディア関連の豊かな資源を活用した「文化庁メディア芸術祭」の京都開催の定例化や「京都国際舞台芸術祭」の実施など、国際文化交流の統括拠点の一つとする。